

AWC 首都圏 NB によるハラスメント(恫喝)と
それに加担した による二次加害への抗議
MN

2025 年 2 月 9 日 A

※ 敬称略 ※

【事実経過】

2025 年 1 月 30 日、11 時から行われた「XXXXXXXXXX」主催の国会前行動に参加。

※この、月一回、憲法審査会に合わせて行われる抗議行動では、AWC 首都圏の NB が司会をするこ
とも多く、実質的な主催者の一人と認識されている。

この日は「XXXXXXXXXX」の方が司会をしており、NB は遅れて 12 時頃から参加し、AWC
首都圏としてスピーチも行った。

※この日は前回と違い、のぼり旗も持たず、前は来ていた FM もいなかったの、AWC 首都圏の
参加は NB 一人だと私は思っていた。

NB がスピーチを終えたあと、集会中に話すか少し迷ったが、後で時間が取れるかも分から
なかったの、集会中に声をかけようと決め、場所を移動し NB に話しかける。

※今月中と期限を切っていた文書の提出について、NB や FM から一切連絡はなく、前回（12 月 19
日の国会前行動）でも、こちらから声をかけて話す時間を設定した経緯がある。

声をかける前から、NB は完全に顔を横に背けて私を見ようとせず、あからさまに「拒否」
の態度を示す。

※こうした態度も一応予想はしていたので、あくまで「責任を持った対応」を求めるために構わず
話をする。

A:「前期限を切った一月はもう終わりますが、文書はどうになりましたか？」

NB:「(顔を背けたまま)「できてません！」

A:「議論はどうになりましたか？」

NB:「(顔を背けたまま) 終わってません！」

A:「じゃあいつ文書は出すんですか？」

NB:「(顔を背けたまま) 文書は確約しません！」

※「確約できない」ではなく「確約しません」と、はっきりと吐き捨てる様に言い、説明をするという態度や
内容は一切なかった。

これではちがいが明かないと思い、私が「じゃあ議論の経過を報告してください」と言ったと
たん、いきなり NB が激昂、私を上からにらみつけ、罵声を上げはじめる。

NB:「お前はどこかの団体の代表か?! どこかの団体の代表なのか! 代表でもない人間に、

なんで組織の内部事情を説明しないといけないのか!!!」

NB の攻撃的な態度に私も怒り、その場で反論。

A 「私が個人で出した文書に対しての対応を聞いているのに、団体がどうか関係ない！今月中に文書を出すというのはあなた方が約束したことだ。NB のこの態度が [REDACTED] 正式な態度ということでいいんだな！」

NB 「(無言でにらみつけてくる)」

周囲もざわつき始め、迷惑になるので、そこを離れて話そうと要求したが NB は拒否。

NB 「おれはここを動かない！言いたいことがあるならここで言え！」

A 「ここで大っぴらに話していいんだな?！」

NB 「ああ、好きに言ったらどうだ！好きに言え!!」

A 「[REDACTED] 大衆運動の場で部落差別発言を行ったから私が抗議しているんだろ
うが！」

言い争いになる中で司会が介入。とりあえず、この集会と直接関係ないことなので別の場で話をしてほしい、という内容。

また、その過程で、NB の隣にいた他の参加者（男性表象の人物）が、NB が先に怒鳴り始めたことを知っていながら、私だけに「集会破壊するな！」と言って来た。

知らない人でもさすがに不当だと思い、「(私は)集会破壊なんかしてない！」と抗議したが、「集会破壊してるだろうが！」となおも私にだけ文句を言い続けた。

※実はこの人物はMNだったことが後日判明。私は MN と面識がなく、この時は全くの第三者だと思っていた。
た。MN は最初から最後まで、NB が怒鳴り散らすのを制止することも注意することもなかった。

私は司会に事情を説明。

集会の場で騒いだこと自体は申し訳ないが、それもNB が引き起こしたことであり、私はこれまでやり取りしていた事についてどうなったか話を聞いただけ。言い争いになったから私は場所を移動しようと言ったが、それを拒否したのもNB。そもそも罵声をあげて暴力的に相手の口をふさぐ行為は（ましてや権力勾配の強い男性が）許されない、と説明。

NB からは一言も反論などではなく、その場で「すいませんでした」とだけ発言したが、誰に・何を「謝罪」しているのかは言わず、私を見ることも一切なかった。

集会終了後、NB に対し改めて、もうあなたとは今後話をしない、AWC 首都圏の Twitter アカウントで無断使用している私の写真を即刻削除しろ、以前からコメントつけているのにずっと無視しているよね？利用するな！と抗議。

NB はいつも通りの態度に戻っており、「分かりました」と答えて帰るが、今（2月9日）に至るまで当該投稿は放置され続けている。

※この投稿の写真は、前回の国会前行動でNBが撮影したもの。その日はNB・FMと話し、両名の発言に徹底的に反論、強く抗議している。その日の夕方、私に一切の確認もなく、AWC首都圏の活動報告に私の写真を無断使用したのは、私のことを完全に見下しなめているのだと受け取っている。

【やり取りに至る背景】

^{MN}のハラスメント放置と加担、二次加害について

【事実経過】にあるように、私はMNと面識がなく、当日は全くの第三者がNBを擁護し加担したのだと思っていたから、抗議はしたものの、迷惑をかけているという思いもあり不十分なものとなっている。

しかし、この〈第三者の現場でのNB擁護・加担〉は非常にダメージが大きく、「^{MN}」への信頼が大きく揺らぐものだった。

ところが、この人物が、この間のやり取りで「門前払い」をし、理由などの説明も一切の接触も拒否してきた【^{MN}】だと聞かされ驚愕した。

それでは、あの日のできごとの意味は全く変わってくる。

MNがあの日国会前行動に来た理由は何か？

「集会破壊」を気にするなら、なぜNBが怒鳴り始めた時点で制止しなかったのか？

それとも、「集会破壊」にならないように私が黙りさえすればいい、NBが私を「恫喝」する行為そのものは認めるということか？

「罵声」は暴力行為の一つであり、特に〈男性〉が〈女性〉を怒鳴る行為は、社会に蔓延する虐待やDV、性暴力の『再演』となり、場の安全を著しく脅かす差別行為でもある。

女性側に差別発言などの加害行為がある場合なら、男性側の抗議の「怒声」が責められないことはあるが、先日のNBの言動は、そういうものでは全くない、一方的な男性側からの「恫喝」である。

そして^{MN}は、NBの「恫喝」を制止し批判するどころか、それを容認し、かつ加担して【二次加害】に及んだ。

しかも私が^{MN}に気づいていないのをいいことに、そのまま責任から逃げようとしたとさえ思える。

NBに比べても悪質だと言わざるを得ない。強く強く抗議する。

以上

※ 追記 ※

【他のハラスメント事案】

「抗議」には至っていないが、ハラスメントに該当すると思われる事案はこれまでも見られているので、追記しておく。

◆「クレーム」発言

日付は失念したが、まだ岸田内閣の頃、NB が国会前行動で司会を担当した際のこと。

国会前には、国会見学の小学生ら児童生徒も多く訪れるため、シュプレヒコールを分かりやすい言葉に変えるという現場の対応は何度か行われていた。

その日も、同様に国会見学の子ども達が多く、集会参加者の女性(表象)の方から現場で「分かりやすいコールをして」と要望が出た。

するとNBはコールの後で「クレームがあったからコールを変えました」とふざけ半分の態度で発言をした。

これまでそうした発言がされることは私が知る範囲ではなく、

〈女性の意見＝クレーム〉が来たから、現場でコールを変えることになって参加者の大多数の男性の方々に迷惑をかけてすみませんね(笑)

という風にしか私には受け取れず、非常に不快で怒りがわいた。

でもその日は、既に他の参加者のスピーチで「増税メガネ」発言があり、ルッキズムでの揶揄や嘲笑は権力批判でも何でもなく、子ども達の中にあるいじめを助長するだけだからやめてほしいと訴えていたばかりで、「これ以上うるさい奴と思われたくない」と批判を口にするのをやめてしまった。

今思えば、嫌われようがはっきりと批判しておくべきだったと反省している。

◆12月19日、NB・FM がいきなり二人で私一人と話をしたこと

元々、この間の「報告依頼文」に関しては、首都圏[]の窓口は〈NB〉と伝えられており、12月19日の時も、私はNBが一人の時に「話をする」約束を取り付けているが、FMは「3人で話すのが当然」のようについて来た。

[] 私は「女性[]」のFMの意見を直接聞いてみたいと思い、自分の意思で断らなかったのも、そのことを問題にする気はない。

ただ、一般的には、対話の際の【人数の不均衡】は権力勾配につながるのを避けるのが原則だと思う。(この場合は2対1となり、NB・FMの方が強者となる)

しかも「AWC 首都圏」[] という【組織】に所属する二人が、どこの組織にも属さない【個人】の私に対し、事前の了承もなく二人でやってきて「対話」するのが当然と考えているなら、ハラスメントに対する認識や意識性があまりに薄いと言わざるを得ないので、今後は気をつけてもらいたい。